

伊勢湾貧酸素情報（第2報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下しており、広い範囲で2ppm以下の貧酸素水塊が形成されています。

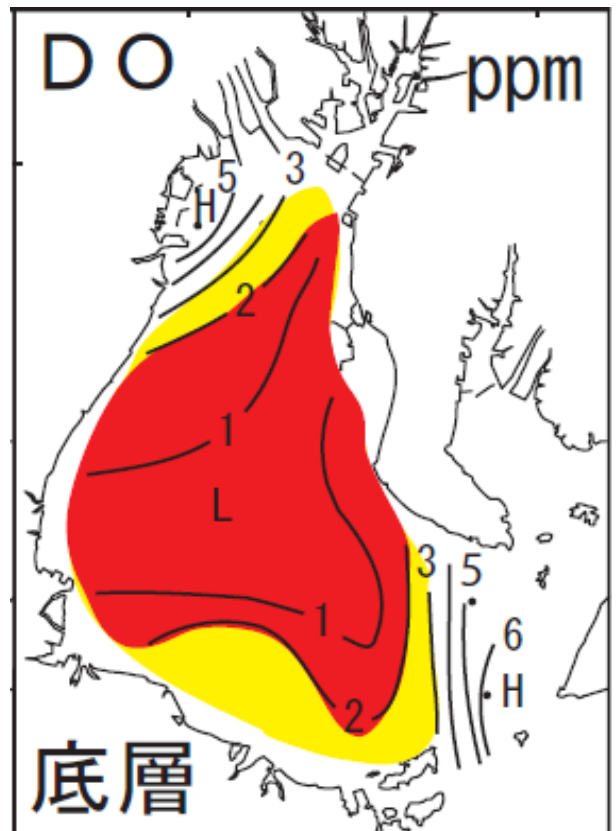
7月8日の調査結果

7月8日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で24.2～28.2℃、10mで20.8～23.2℃、底層で17.5～21.6℃の範囲にあり、表層はやや高めからかなり高め、10mでやや高めから高め、底層では平年並からやや高めとなっていました。

DO（溶存酸素量）は表層で4.1～11.5ppm、10mで3.9～7.8ppm、底層で0.1～6.4ppmの範囲にあり、表層はやや低め、10mでやや高め、底層では平年並からやや低めでした。

底層では、先月の観測時より貧酸素化が進んでおり、伊勢湾の湾奥部と湾口部を除く広い範囲で、2ppm以下の貧酸素水塊が形成されていて、湾中央部では1ppm以下となっていました。

成層化が進んでおり、上下混合が起こりにくく、今後も貧酸素状態は継続するものと思われます。



底層貧酸素水塊分布図